

6月6日（木）午後7時

場所；船橋市勤労市民センター

船橋地名研究会 滝口 昭二

Tel・Fax0476-27-6063

## 御成街道周辺の歴史

### 1、本町通の別称

「成田街道、佐倉道、東金街道、房総街道、千葉街道、江戸道、市川道、行徳道」

東金街道・・・国道126号（千葉市中央区本町一丁目～東金市台方）

東金御成街道・・・県道69号、66号

成田街道・・・中野木交差点から成田

佐倉道・・・千葉から佐倉

通称がたくさんあるのは歴史の変遷の結果

### 2、御成街道（東金街道）の概要、

慶長18年（1613）12月12日着工翌慶長19年1月7日完成

「一夜街道」「提灯街道」、

「西向地蔵」から「東金御殿」約38km（ほかに35, 32説も）、周辺の村約97村（ほかに90, 91, 95の資料もある）に担当距離を割当。

徳川家康が東金方面で鷹狩をするため、佐倉城主土井利勝に命じて新道を建設させた東金南総方面への押さえ。東総物産の集約。江戸城からの退路として・・・など諸説  
休息・宿泊所とし船橋御殿、お茶屋御殿東金御殿

□現在の所屬行政体

5市3区（船橋市・習志野市・四街道市・八街市・東金市、千葉市花見川区、同稲毛区、同若葉区）にわたる。直線状の部分は約33.725キロメートル（東金市滝台入口まで）。

□御成街道の様子

台地上の道は大きくS字状に屈曲し、4つの直線から出来ている。一つの直線の中に一里塚といわれる遺跡を2箇所含んでいる。特に谷を避けた形跡はない

「滝台入口」から「東金御殿」までは地形が複雑で高低差が激しいので旧道を改修？「おあし坂」（旧蚕業試験場、現千葉県農業総合研究センターの南側）と日吉神社の参道「山王坂」に旧道が刻まれて残る。

#### □御成街道の道幅・・・

2間から2間半（4mから5m）と思われる。

千葉市若葉区駐屯地東側と富田町、八街市「滝台」付近にのこる。

船橋の「本町通」・・・寛政12年11月の「船橋九日市村村鑑明細書上帳」に  
「佐倉往還土橋（海老川橋の事）長七間半横二間半」とある。

#### □道の標高

御成街道は全体としては西低東高 西向地藏6m、日枝神社20m船橋付近では20m、東金市滝付近では65m、東金御殿10m

谷を横断することが多い。・・・船橋から下志津原まで・・・東京湾斜面の谷を10箇所  
下志津原から滝台まで・・・太平洋斜面の谷17箇所（合計27箇所・成田道は17回）  
このうち10箇所は幅が100m、高度差が10数m 谷斜面を渡るには道を屈曲させている

#### □一里塚

「御成街道」には成田街道入口から9個の一里塚。塚の残るもの、一里塚の伝承がある。  
ほとんどの場所で消滅、痕跡をとどめるものは「焼塚」と「提灯塚」のみ。

#### □消滅した御成街道・・・使われることが少なかったため（集落を通過しない。坂道）

現在はその後の軍用地化と開墾による区画整理によって「稲毛区六方町」のバス停「長沼原町」から「若葉区若松町」の「鎌池」バス停付近まで（旧六方原、明治6年から陸軍演習場）と、「八街市沖」の部分（旧小間子牧・明治以後は鍋島開墾）が消滅。

### 3、東金街道の起点についての諸説

#### □いろいろな起点説

大神宮西門下説 船橋御殿入口説 成田街道入口説

現在の定説・・・西向地藏説・・・どのようにして確定させたか。船橋村の担当距離19町、1町130m・・・一里塚の距離が約4・7km。当時1町は約130m

小林一茶も「梅の香や東上総のばか一里」。

船橋村の担当は「十九町」約2500m、「西向地藏」（村境）「中野木交差点」（郡境）

#### 4、なぜ船橋が起点になったか。

□よく言われる目的 (再掲)

家康・・鷹狩が好む。生涯にわたり1000回以上 道楽、健康保持、農民の生活状況の視察、地形の察知、軍事訓練街道や宿場の整備、旧勢力への監視と威圧など

□起点になった理由

江戸城東部で最も近い湊町で、かつ上陸可能地点(利根川低地、広大な干潟)

海老川河口の水深と滞・・海上交通集団を生んだ地形

大神宮を中心とした海上交通集団の残像。輸送能力(船と人夫)の残存

船橋から房総半島に延びる街道筋(房総往還、佐倉道)

低平な船橋砂州の存在・交通の要衝としての宿場の形成

[それまでの歴史と地形がその背景にある。]

5、「本町通」の形成に伴う町の変化

□海神との村境

□本町通の地割

□海老川橋の架橋・川幅の短縮

□宮坂の開削

史料

御成街道に関する史料

1、「慶長十九年甲寅 従舟橋東金新道作帳」 千葉市園生町吉田公平家文書

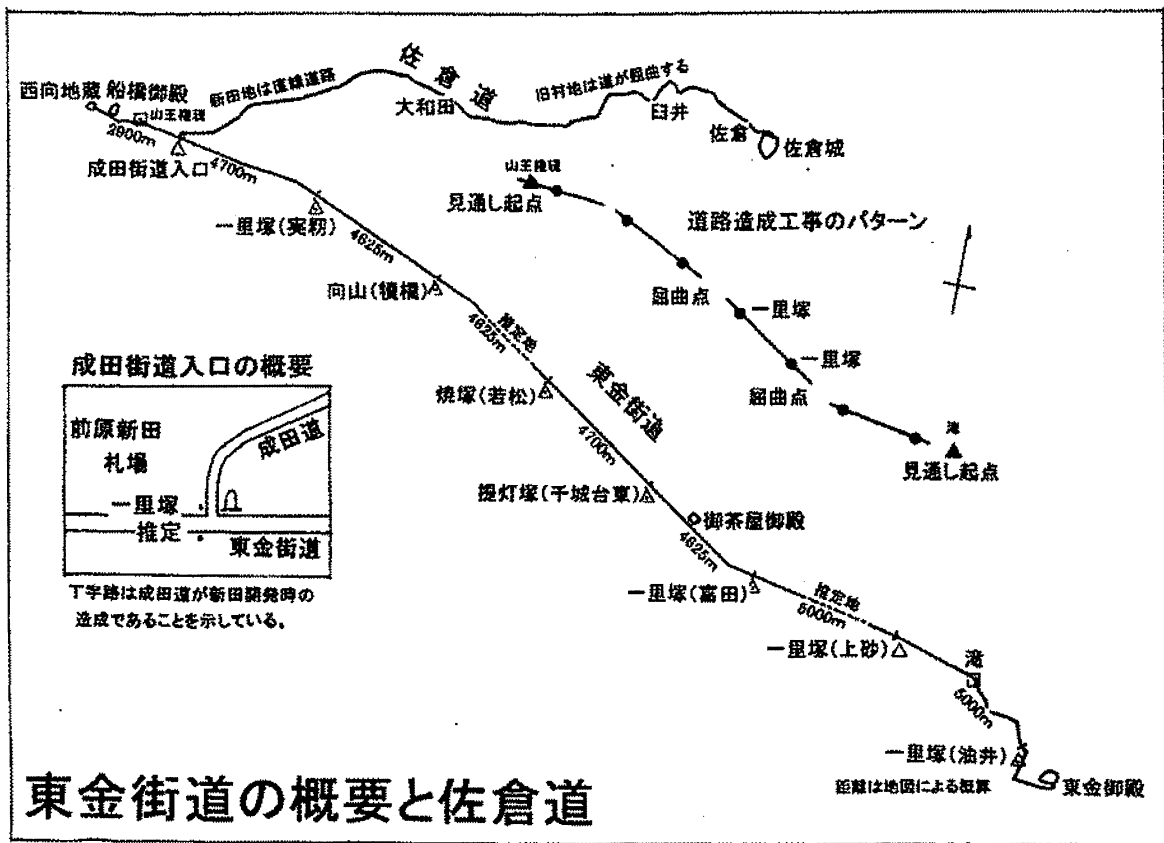
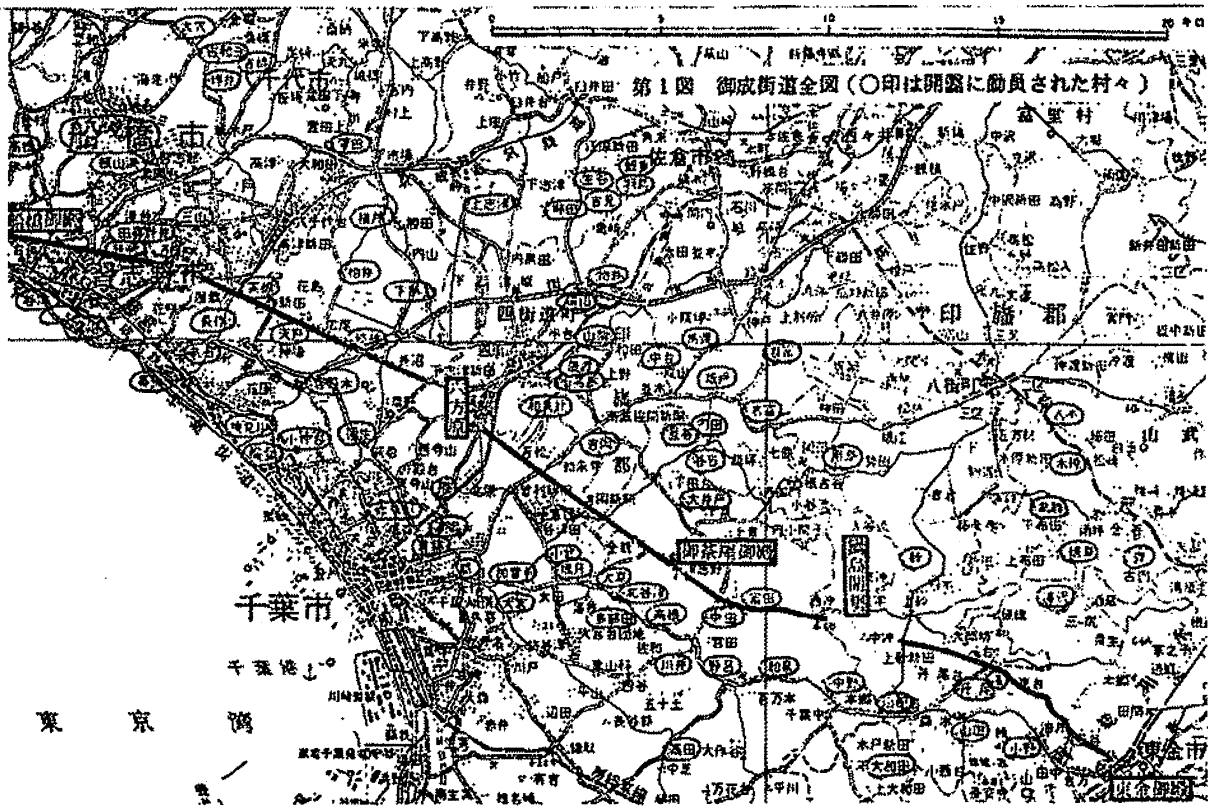
2、「慶長十九年甲寅 舟橋より東金新道普請覚帳」 佐倉市坂戸町木村浩家文書(享保3年の奥書)

3、「慶長十九年申申 舟橋より東金新道通覚帳」 習志野市藤崎町田久保精一家文書  
記載順序・・・「村高、担当距離、村名」

1号史料は95村、2号史料は90村、3号史料は91村と異なる。全部を並べると97村

担当距離・・1号史料は35km、2号史料は32km、3号資料は33km

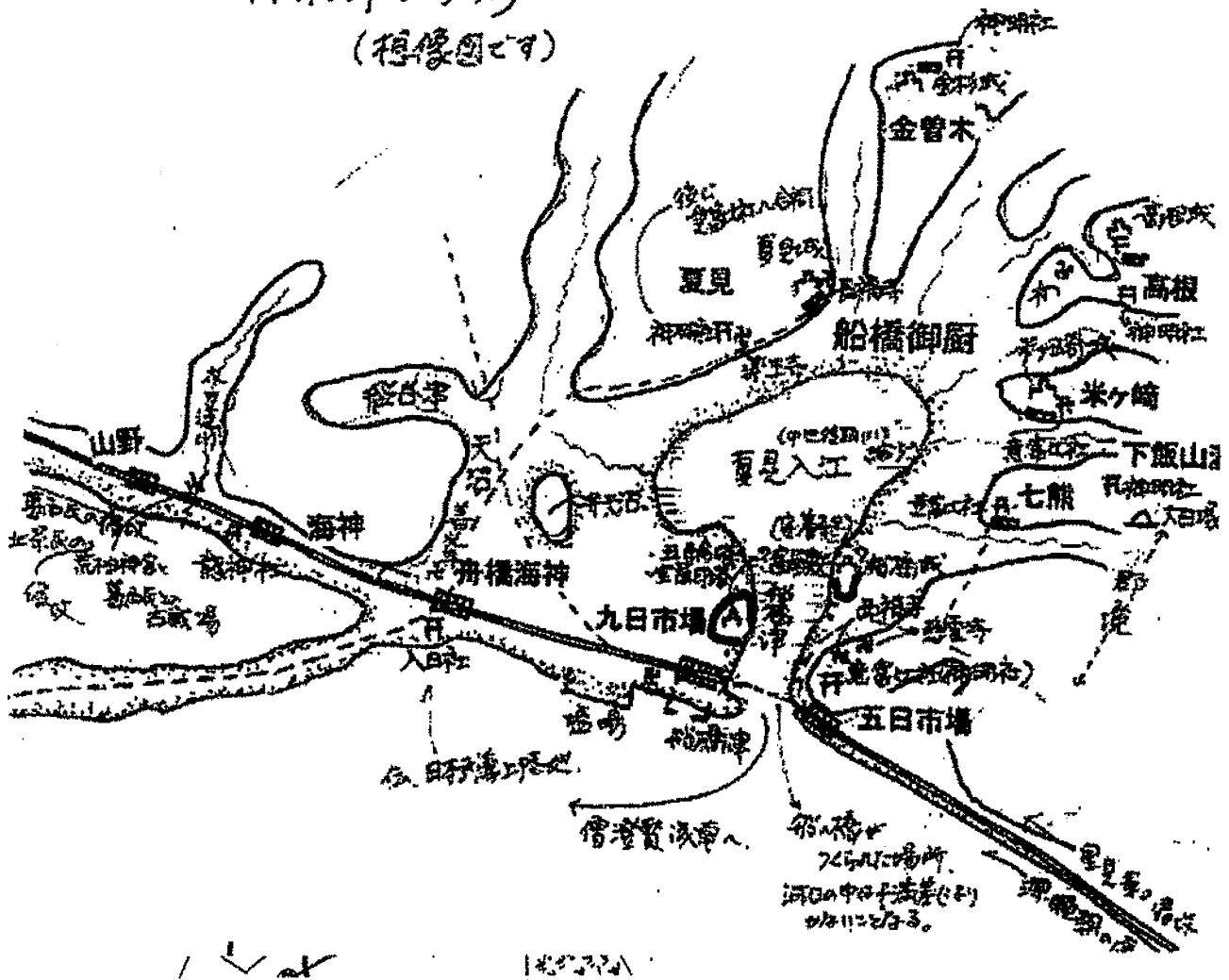
これらの文書は慶長十九年の「原本」ではない。その後の道普請の際に前例が大事。



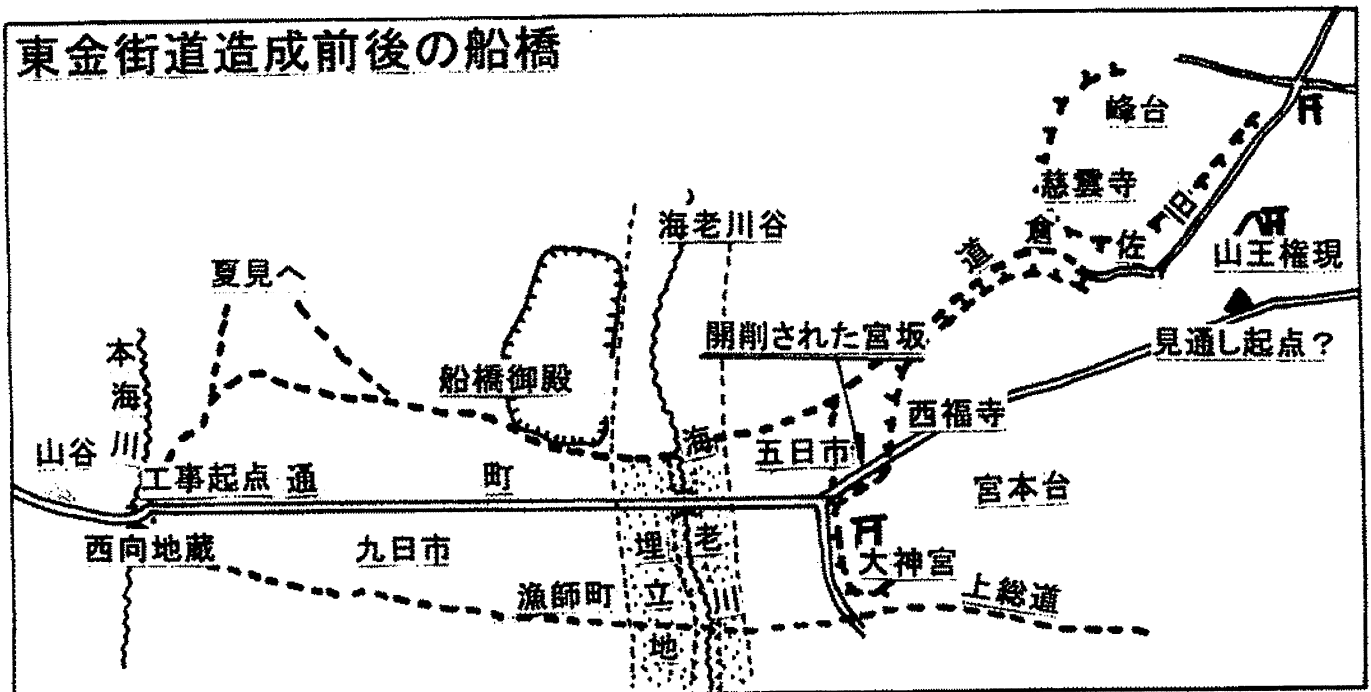


# 中世の船橋南部スナッチ

(想像図です)



## 東金街道造成前後の船橋



图中の地名は当時のものではありません

H15・3・10 滝口作図